



保美貝塚とは

縄文時代晩期(約3200～2500年前)を中心とした貝塚で、国史跡吉胡貝塚、県史跡伊川津貝塚と並び渥美の三大貝塚として、全国的に知られる、田原市自慢の遺跡です。これらの貝塚から葬られた縄文人骨が発見され、縄文人の形質や社会の研究に大きく貢献しました。今日イメージする縄文人の姿は、じつは渥美半島の縄文人の姿なのです

貝塚は福江湾に流れる免々田川の西側の標高6・7m程度の台地の先端にあります。これまでに、A・B・Cの3地点の貝塚が確認されています。B貝塚には八幡の森と呼ばれる小高い場所が残っています。

明治36年の調査以来、数多くの調査が行われたにも関わらず、出土品のみ知られるだけで遺跡の実像はまだまだわかりません。近年では、重要な発掘調査と報告が相次ぎ、再び注目を集めています。

近年の重要な発見

- ★平成21年度調査 C貝塚の一部を調査。貝層と縄文時代の墓を発見。
- ★平成22年度調査 3つの貝塚に囲まれた台地のほぼ中央で、東海地方で始めて環状に並び木柱列が発見されました。
- ★保美調査団の調査 B貝塚で10例目となる三河地方にしかない盤状集骨墓(ばんじょうしゅうこつぼ)が発見されました。付近でも同じような墓が3例が発見されています。

今回の調査

平成24年度から、保美貝塚の広がり、保存状態を確認するために調査を進めています。せっかくの遺跡がこわれないように慎重に調査をしています。

H24年度・・・遺跡の広がりを確認するために、広範囲に5箇所調査区を設けました。

H25年度・・・17箇所のトレンチを設け、保存状態の確認を行いました。埋葬人骨が確認されました。

H26年度・・・B貝塚周辺で8箇所のトレンチを設け補足的な調査を行っています。

OB貝塚の貝層が見つかったトレンチ

今回の発掘調査で、B貝塚の貝層が見つかったのは2T・3T・6Tの3箇所です。2TではB貝塚の貝層の東端を、3Tでは貝層の南端を確認しました。6Tでは、八幡の森にかかる箇所から貝層を確認しました。

2T(1×12.5m)は八幡の森の南側の畑、擁壁から北に90cmの場所に設定しました。完形貝を多量に含む厚さ約20cmの貝層が、西端から約5mまで広がります。地表から西側では約70cmで、東側では約50cmで地山を確認しました。遺物は、B貝塚の貝層の上面から、縄文時代晩期後半の保美形深鉢が見つかり、貝層内から縄文土器・石鏃・骨が見つかります。

3T(10.3×1m)は2トレンチの南側にある畑の中、道路にそって設定しました。完形貝を含む厚さ約10cmの貝層が、北端から10mまで広がっています。遺物は土器、石鏃などが見つかりました。

6T(3×1m)は八幡の森の北側(4Tの東側)に設定しました。南側拡張部では地表から30cmで、B貝塚のものと思われる完形貝を多量に含む貝層を確認しました。貝層の範囲は、南端から80cmまで広がっており、北側では、約20cmで地山を確認しました。遺物は土器・石器・骨などが見つかりました。

OB貝塚の貝層が見られなかったトレンチ

1T・4T・5T・7T・8Tでは、B貝塚の貝層は見られませんでした。各トレンチ(4ト

ンチを除く)は地山まで掘り下げを行いました。遺構と思われるのは7Tの時期不明の柱穴のみです。遺物は、縄文土器片が中心で、石鏃などの石器・骨などが見つっています。

1T(1×5m)は、八幡の森の東側に設定しました。地表から約20cmで地山を確認し、遺物は土器・石鏃などが見つっています。

4T(4.5×1m)は、八幡の森の北側に設定しました。北側では、地表から20cmほどで地山を確認しました。破碎貝が層に含まれていますが、完形貝が少なく、保美B貝塚の貝層は確認されませんでした。遺物は、縄文時代の土器片が多いですが、近世の陶磁器なども混じっているため、かく乱であると思われます。しかし、このかく乱からバラバラの状態でも人骨も出土しています。

5T(5×1m)は、八幡の森の北東側に設定しました。地表から約20cmで地山を確認し、遺物は土器片、石棒などが見つっています。

7T(1×2m)は、八幡の森の北西側に設定しました。地表から約30cmで地山を確認しました。東側では、時期不明の柱穴と思われる遺構を確認しました。遺物は、土器片が見つっています。

8T(1×2m)は、八幡の森の北西側(7Tのさらに奥)に設定しました。約40cmで地山を確認し、遺物は地表から30cmから40cmの深さで、多量の土器片が見つっています。

期待される成果と保美貝塚のこれから

田原市教育委員会は保美貝塚発掘調査団(代表 国立歴史民俗博物館 山田康弘氏)と連携をとって保美貝塚の調査を進めています。見つかった縄文人が使用した道具、大地に掘り込まれた活動の痕跡など、考古学的な成果により保美貝塚がどのような村であったか、どのような生活をしていたか明らかになるでしょう。また、動物の骨、植物の化石などから、縄文時代の保美貝塚周辺ばかりでなく、渥美半島の自然環境が明らかになるでしょう。人骨のDNA・ストロンチウム分析など、保美貝塚の人たちのルーツを探るロマンあふれる研究や彼らの食生活の分析など最新の方法で研究が進められています。これらの研究は、田原市ばかりでなく日本の縄文時代の研究に役立つに違いありません。今からワクワクしています。

保美貝塚が全国に知られるきっかけとなった調査から111年を経ています。この時以来日本の考古学・縄文時代・人類学の研究に大きく貢献し、豊かな縄文人像を提供してきました。今後はこの素晴らしい遺跡をもっと知ってもらい、地域はもとより市の文化発信につながるよう、大事に保護や活用が図られるように取り組んで生きたいと思ひます。

みなさんも、ぜひ保美貝塚ファンになりましょう!!

※これまでわかった保美貝塚

- ・保美貝塚の台地には2万年前くらいから人が住んでいた。
- ・他の貝塚と同様に多くの埋葬人骨が見つっているが、盤状集骨をはじめとする集骨の墓が密集する場所がある。
- ・東海地方ではじめて環状木柱列が発見された。
- ・貝塚は台地の上に大きく3つの貝塚できていた。貝塚は晩期中葉から作られた可能性がある。
- ・イノシシ・シカを中心に積極的に狩猟をしていた。
- ・魚は大型のタイやフグばかりでなくマグロなども採っていた。
- ・イルカ・クジラ類ニホンアシカなどの大型の魚とともに外湾にも目が向けられている。
- ・貝は、遺跡前の干潟のアサリ(主体)、ハマグリ、マガキ、アカニシ、岩場のスガイ、表浜のダンバイキサゴ(ながらみ)などが採られていた。
- ・石鏃の出土が多い。
- ・石棒などのいりのりの道具が多く見つっている。
- ・東西日本をはじめとする各地の土器が見つかり、文化の交流を担っていた可能性がある。
- ・表浜で採取できるベンケイガイ・サトウガイを素材として貝輪を生産していた。



H26 2T 保存のよい貝層発見!!



H26 4T 八幡の森に64年ぶりに調査のメスが



H25 1T 思いがけずに埋葬人骨発見!!



H21 カメラ目線の縄文犬!



巨大エイの尻尾の毒針でつくられた ヤス!!

H21 マッチョな縄文人。さぞかしモテたでしょう。



美しい骨角で作られた装飾品・道具



H22 大発見 環状木柱列

